



29文科初第1765号
平成30年3月23日

各都道府県教育委員会
各指定都市教育委員会
各都道府県知事殿
高等学校を設置する学校設置会社を所
轄する構造改革特別区域法第12条第
1項の認定を受けた各地方公共団体の長

文部科学省初等中等教育局長
高橋道和

(印影印刷)

高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドラインの
改訂等について（通知）

文部科学省では、一部の広域通信制高等学校において不適切な学校運営等の問題が生じたことを踏まえ、平成28年9月、「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）を策定し、各所轄庁に対し、同ガイドラインに基づく指導監督等の実施についてお願いしてきました。

ガイドライン策定後、文部科学省において実施した広域通信制高等学校に対する点検調査等で明らかとなった課題等を踏まえ、平成29年7月、広域通信制高等学校の質の確保・向上に関する調査研究協力者会議において、「審議のまとめ」として、更なる質の確保・向上方策について提言がなされました。

文部科学省としては、この審議のまとめを踏まえ、ガイドラインの改訂（別添1）をはじめとする高等学校通信教育の質の確保・向上のための施策を講じたところです。

各施策の主な内容は下記のとおりとなりますので、各都道府県教育委員会におかれては、所管の通信制高等学校及び域内の通信制高等学校を設置する市（指定都市を除く。）区町村教育委員会に対して、各指定都市教育委員会におかれては、所管の通信制高等学校に対して、各都道府県知事及び通信制高等学校を設置する学校設置会社を所轄する構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた地方公共団体の長におかれては、所轄の通信制高等学校及び学

校法人又は学校設置会社に対して、それぞれ周知していただくとともに、必要な指導監督等の実施をお願いします。

あわせて、審議のまとめにおいて「各所轄庁が、通信制高等学校に関する事務を執行する職員を十分に配置し、高等学校通信教育に関する専門的な知識・経験等を有する職員等を置くなど、指導監督体制の充実を図ることが必要である。」とされていることを踏まえ、各所轄庁におかれては、ガイドライン等に基づく指導監督等を実施するための体制整備について、ご留意いただきますようお願いいたします。

記

1. ガイドラインの改訂の概要

(1) 添削指導及びその評価

- ① 添削指導は高等学校通信教育における教育の基幹的な部分であり、実施校は添削指導を通じて生徒の学習の状況を把握し、生徒の思考の方向性をつまづきを的確に捉えて指導することを加えたこと
- ② 添削指導の実施に当たっては、年度末や試験前にまとめて添削課題を提出させたり、学期当初に全回数分の添削課題をまとめて提出することを可能としたりするような運用は行わないことを加えたこと。また、添削指導や面接指導が完了する前に、当該学期の全ての学習内容を対象とした学期末の試験を実施したりするようなことがないよう、年間指導計画に基づき、計画的に実施することを加えたこと
- ③ 添削指導の実施に当たっては、正誤のみの指摘はもちろん、解答に対する正答のみの記載や一律の解説の記載だけでは不十分、不適切であり、各生徒の誤答の内容等を踏まえた解説を記載するなど、生徒一人一人の学習の状況に応じた解説や自学自習を進めていく上でのアドバイス等を記載することを加えたこと
- ④ 生徒から添削指導等についての質問を受け付け、速やかに回答する仕組みを整えることを加えたこと

(2) 面接指導及びその評価

- ① 面接指導は、添削指導と同様、高等学校通信教育における基幹的な部分であり、各学校はその重要性に鑑み、絶えず改善に努めることを加えたこと
- ② 実施校以外の連携施設において面接指導を実施する場合、実施校において生徒の履修状況を十分に把握するとともに、例えば、観察・実験や実習が適切に実施できるよう、施設・設備等も含め、面接指導を行う上で適切な教育環境を整えることを加えたこと
- ③ 実施校や連携施設において実施されている、いわゆる通学コースにお

ける教育活動と、高等学校学習指導要領（平成21年文部科学省告示第34号。以下「指導要領」という。）等に基づき実施される面接指導とは明確に区別されるものであり、面接指導は上記の事項も踏まえ、指導要領等の法令等に基づき実施することを加えたこと

(3)多様なメディアを利用して行う学習及び当該学習による面接指導等時間数の減免

- ① 多様なメディアを利用して行う学習を計画的、継続的に取り入れ、報告課題の作成等により、その成果が満足できると認められる場合であって、生徒の実態等を考慮して特に必要がある場合は、面接指導等時間数のうち、複数のメディアを利用することにより、メディアごとにそれぞれ10分の6以内の時間数を免除することができることとし、免除する時間数は合わせて10分の8を超えることができないことを加えたこと
- ② ①について、生徒の実態等を考慮して特に必要がある場合とは、例えば、「病気や事故のため、入院又は自宅療養を必要とする場合」、「いじめ、人間関係など心因的な事情により登校が困難である場合」、「仕事に従事していたり、海外での生活時間が長かったりして、時間の調整がつかない場合」や、「実施校自らが生徒の実態等を踏まえ、複数のメディア教材を作成する等により教育効果が確保される場合」等が想定されることを加えたこと
- ③ 生徒の面接指導等時間数を免除しようとする場合には、本来行われるべき学習の量と質を低下させることがないように十分配慮しなければならないことを加えたこと
- ④ 生徒の面接指導等時間数を免除する場合、多様なメディアを利用して生徒が行った学習の時間数と、同程度又はそれ以上の時間数を免除するという運用は不適切であることを加えたこと
- ⑤ ④について、面接指導への欠席等により面接指導等時間数が不足するおそれのある生徒に対し、多様なメディアを利用して行う学習により面接指導等時間数の減免を行おうとする際には、平素から個々の生徒の面接指導の状況を把握し、多様なメディアを利用して行う学習が計画的、継続的に取り入れられるよう留意が必要であることを加えたこと

(4)学校設定教科・科目、総合的な学習の時間の実施

- ① 学校設定教科・科目の開設、実施に当たっては、年間指導計画に基づき、資格のある教員が指導要領等に則り適切に実施することを加えたこと。特に、単なる体験活動の実施を単位認定するような運用や、生徒の学習状況の把握及び評価が十分に行われないうまま実施されるような運用は不適切であり、高等学校教育の目標及びその教育水準の確保等に十分配慮することを加えたこと。また、学校設定教科・科目の添削指導の回数及び面接指導の単位時間数については、1単位につき、それぞれ1回以

上及び1単位時間以上を確保した上で、各学校において適切に定めることを加えたこと

② 総合的な学習の時間の添削指導の回数については、指導要領の規定を踏まえ、1単位につき1回以上を確保した上で、各学校において、学習活動に応じ適切に定めることを加えたこと

③ 総合的な学習の時間における面接指導の単位時間数については、指導要領の規定を踏まえ、観察・実験・実習、発表や討論などを積極的に取り入れるためには、面接指導が重要となることを踏まえ、1単位につき1単位時間以上を確保した上で、各学校において、学習活動に応じ適切に定めることを加えたこと

(5) 学校評価

自己評価の実施の際、添削指導等については、連携施設における実施状況も含め、ガイドラインを踏まえたものとなっているかについても評価の対象とすることを加えたこと

(6) 積極的な情報公開の推進

① 実施校及び実施校の設置者においては、積極的な情報公開に努めることを加えたこと。また、その際には、生徒や保護者等の関係者が、学校の教育環境の充実に向けた取組や学校の運営状況等に関し、適切かつ十分な情報を得られるよう努めることを加えたこと

② ①について、学校の教育環境の充実に向けた取組や学校の運営状況等に関する情報としては、生徒の状況（生徒数や活動の様子）、教職員の配置状況（専任・兼任の別を含む）、各教科・科目等の開設状況、施設・設備の整備状況、連携施設の状況、授業料等の学納金に関する情報及び財務状況等についてホームページの活用等により、生徒や保護者等の関係者がアクセスしやすい環境が整備されることが望まれることを加えたこと

(7) その他

① 学校に在籍しながら履修登録を行わない生徒や、履修登録しているにも関わらず、添削課題への取組や面接指導への参加が困難な生徒に対しては、個々の実情に応じ、適切な指導又は支援を行うよう努めることを加えたこと

② ①について、1科目も履修していない、いわゆる「非活動生徒」については、学校に在籍を続けることで、生徒の能動的な活動を待つという教育的配慮が必要な場合もあるため、画一的な対応によるのではなく、生徒の抱える課題等に留意することが必要であることを加えたこと

③ 教育支援や生徒指導、進路指導等は、いわゆる通学コースに生徒が在籍しているか否かにかかわらず、学校として在籍する全ての生徒に対して、当然に行うべきものであることを加えたこと

なお、(3)①及び④並びに(4)の内容については、現在、改訂作業中の新たな高等学校学習指導要領と整合性を図っているものであること。

2. 学校教育法施行規則の改正

面接指導等実施施設を学則の記載事項とし、都道府県等が自ら所轄する通信制高等学校の教育活動が行われる施設を網羅的に把握し、指導監督に活かすことを目的として、学校教育法施行規則を改正する省令の公布を平成29年度末に予定しており、平成30年4月1日より施行される予定であること。当該省令改正に係る留意事項等については、別途、通知する予定であること。

3. 広域通信制高等学校の面接指導等実施施設に係る学則認可にあたって参照すべき指針の策定

2. の改正により、面接指導等実施施設が学則の記載事項となることを踏まえ、所轄庁における面接指導等実施施設に係る学則の認可の際に、参照すべきものとして指針を策定するものであること。当該指針については、2. の公布通知とあわせて各都道府県等に対し周知を図る予定であること。

4. 高等学校通信教育の質の確保・向上のための指導監督マニュアルの策定

文部科学省が所轄庁に全面的に協力しつつ実施した点検調査等において蓄積した情報をもとに、所轄庁がガイドラインに基づき通信制高等学校に対する指導監督等を行う際に留意すべき点を取りまとめたマニュアルを策定したこと。

なお、当該マニュアルについては、各所轄庁に対し別途郵送を予定していること。

5. 広域通信制高等学校の展開するサテライト施設に関する情報の集約及び公表

広域通信制高等学校については、実施校の所在する都道府県の内外に多くのサテライト施設が存在している例があり、当該施設がいずれの広域通信制高等学校と連携しているか明確でない場合、所轄庁が指導監督を実施する際や、生徒・保護者が学校選択をする際の支障となる可能性があることから、「広域通信制高等学校の展開するサテライト施設に関する調査について（依頼）」(29初初企第51号 平成30年2月21日付教育制度改革室長通知)により各所轄庁の協力のもと得られた情報を、平成30年度初頭を目途に文部科学省ホームページにおいて公開する予定であること。

6. 私立高等学校等経常費補助の今後の取扱いについて

「私立高等学校等経常費補助（特定教育方法支援事業（広域の通信制教育

の支援))の今後の取扱いについて」(平成30年1月19日付文部科学省高等教育局私学部私学助成課事務連絡)において示しているとおり、違法・不適切な学校運営等があった場合に、その改善を促すための仕組みとして、経常費補助を減額して交付することができる仕組みを設けることを予定していること。

また、広域通信制高等学校の指導監督は所轄庁である都道府県が行っていることを踏まえ、所轄する広域通信制高等学校において違法・不適切な学校運営等があった場合に、国が交付決定を行うに当たって、都道府県が国に対して意見を述べる仕組みをあわせて構築することを予定していること。

本件担当

1. から 5. までについて

初等中等教育局

初等中等教育企画課教育制度改革室

TEL : 03-5253-4111 (内線2022)

6. について

高等教育局

私学部私学助成課

TEL : 03-5253-4111 (内線2547)

高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン

平成 28 年 9 月 策定

平成 30 年 3 月 一部改訂

本ガイドラインは、高等学校通信教育の質の確保・向上を図るため、通信制の課程を置く高等学校（以下「実施校」という。）における主体的な学校運営改善のための取組や、所轄庁における実施校に対する指導監督の際に参照すべき指針として策定するものである。

実施校においては、校長及び教員の資格、学校の管理運営、施設・設備、学科及び教育課程、入学・退学・転学等の事項について、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）その他の関係法令を遵守するとともに、特に以下の点に留意して学校運営を行う必要がある。

1. 学校の管理運営に関する事項

(1) 教職員の配置等

- ① 実施校の設置者は、高等学校通信教育規程（昭和 37 年文部省令第 32 号。以下「通信教育規程」という。）第 2 条に規定する添削指導、面接指導、多様なメディアを利用した学習を取り入れた指導及び試験について、各教科の教員免許状を取得している実施校の教員により行うことができるよう、教員配置を行うこと
- ② 実施校の設置者は、不登校経験や中途退学その他多様な課題を抱える生徒一人一人の事情に寄り添ったきめ細かな指導を行うことができるよう、教員配置の充実を図ること
- ③ 実施校の設置者は、事務職員の配置等による学校事務体制の整備に努めること

(2) 連携施設との適切な協力・連携関係の確保等

- ① 協力校（通信教育規程第 3 条第 1 項に定める高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）をいう。）、技能教育施設（学校教育法第 55 条に定める技能教育のための施設をいう。）、サポート施設（学校教育法その他の関係法令に基づくものではない、生徒を学習面や生活面等で支援する民間施設）、その他の施設（以下「連携施設」と総称する。）と協力・連携を行う実施校の設置者は、これらの連携施設との協力・連携について担当する教職員を配置し、定期的に訪問する

など、適切な協力・連携関係の確保に努めること

- ② 実施校の設置者は、連携施設と協力・連携を行う場合は、その協力・連携内容について、連携施設の設置者とあらかじめ文書による取り決めを行うこと
- ③ 添削指導、面接指導、多様なメディアを利用した学習を取り入れた指導、試験及び生徒の履修状況の把握・確認その他生徒の成績評価や単位認定等に関わる業務（以下「添削指導等」という。）は、連携施設の職員など実施校の校長の監督権が及ばない者に実施させることなく、実施校の教職員が行うこと¹
- ④ 連携施設に実施校の教員を派遣・配置したり、連携施設に勤務する各教科の教員免許状を有する職員に対して、兼務発令等により実施校の教員としての身分を付与し、実施校の添削指導等を行わせたりする場合、添削指導等が実施校の校長の監督下、実施校の設置者の管理責任の下で行われること、及び実施校と連携施設の業務が渾然一体とならないことを担保するための適切な措置を講じること

具体的には、例えば、契約書や委嘱状その他の書面により、連携施設の職員が行うべき業務内容を明確に定めること、実施校の方針に従い教育活動を行うことができるようマニュアルを整備することや、連携施設における実施校の業務の管理を行うための専任の担当教職員を置くことなど、管理運営上、一層の工夫を行うよう留意すること²

¹ 実施校の校長の監督権が及ばないサポート施設の職員に添削指導等を行わせることが不適切であることは当然として、協力校についても、実施校の校長の監督権が及ばない協力校の教職員に、実施校の教職員に代わって面接指導及び試験等を実施させることはできない。また、技能教育施設についても、実施校の校長の監督権が及ばない技能教育施設の職員に、技能連携措置の対象となる教科・科目以外の教科・科目に関する添削指導等を実施させることはできない。

² 添削指導等については、実施校の設置者が連携施設の職員に対して給与等を支払っているかどうかに関わらず、実施校の校長の監督下、その管理責任の下で行われることが必要である。また、このことは、単に契約書や委嘱状等の形式ではなく、実態に即して判断するべきものであることに留意することが必要である。

- ⑤ 生徒募集等の際に、実施校が行う高等学校通信教育と連携施設が独自に行う活動との区別を明確に説明するなど、実施校と連携施設の関係について、実施校としてあらかじめ生徒・保護者に十分な説明を行うこと。また、連携施設において、連携施設が高等学校の施設であると誤解させたり、連携施設の独自の活動等を受講することが高等学校を卒業するために必ず必要となるかのように説明したりするなど、不適切な勧誘等が行われないようにすること。授業料等についても、実施校が行う高等学校通信教育に係る授業料と連携施設が独自に行う活動等に係る費用の区別について、生徒・保護者に適切かつ明確な説明が行われるようにすること³
- ⑥ 連携施設において、実施校の名称のみを掲げた看板を設置したり、実施校を「本校」、連携施設を「キャンパス」と称して生徒・保護者に説明したりするなど、連携施設が実施校の施設であるかのような誤解を招くことのないように留意すること。上記④の方法による場合においても、当該施設は、実施校とは連携等の関係にある施設であって、実施校の施設ではないことが明確になるようにすること
- ⑦ 実施校において、自校の施設として添削指導等を行う施設を設置する場合であっても、本ガイドラインを踏まえ、適切な学校の管理運営に資するよう留意すること⁴

³ 本ガイドラインは、実施校において、高等学校通信教育の質の確保・向上のために留意すべき事項を定めるものであり、連携施設が独自に行う活動等について直接規定するものではないが、多くの連携施設において実施校の生徒募集等が行われている実態があることを実施校自らが認識していることや、実施校には、文書による取り決め等により連携施設との適切な協力・連携関係の確保に努めることが求められることに鑑みれば、実施校の責任として、生徒・保護者に対して不適切な説明が行われないようにすることが必要である。

⁴ ここでいう「自校の施設」とは、自己所有、借用のいずれかを問わない。また、他の学校等の校舎施設の一部を借用して自校の教室としているものも含む。

(3) 学校評価

- ① 教育活動その他の学校運営の状況について、「学校評価ガイドライン〔平成 28 年改訂〕」（平成 28 年 3 月 22 日、文部科学省作成）等を踏まえ、少なくとも 1 年度間に 1 回、自己評価を行い、その結果を公表すること。その際、添削指導等については、連携施設における実施状況も含め、本ガイドラインを踏まえたものとなっているかについても評価の対象とすること。また、評価結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めること
- ② 学校関係者評価の実施に努め、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めるとともに、必要に応じ、第三者評価を実施すること

(4) その他

- ① 編入学による生徒の受入れに当たっては、編入学を希望する生徒が在籍し、又はしていた教育機関について、法令上、編入学が認められるかどうかを確認するなど、適切に処理すること。また、学期の途中で転入学・編入学を受け入れる際には、前籍校における学習状況等を十分に確認した上で、下記 2 の教育課程等に関する事項を踏まえ適切な教育を行うこと
- ② 高等学校入学者選抜の日程については、各都道府県において公・私立の高等学校及び中学校の関係者による協議等を経て定められていること、高等学校入学者選抜は、中学校の教育活動の成果を十分評価することができる資料及び時期により行われるよう特に配慮することが必要であることを踏まえ、入学者選抜及びその結果の公表は適切な時期に行うこと。また、連携施設において、不適切な時期に生徒・保護者に対して実施校への入学が決定したかのような説明がなされないようにすること
- ③ 実施校において、学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 28 条第 1 項各号に定める表簿等を備えているとともに、同条第 2 項に定める期間、適切に保存すること。また、生徒情報の適切な管理等に努めること

- ④ 高等学校等就学支援金の代理受領等の事務を適正かつ確実に執行するとともに、生徒募集等に当たって、高等学校等就学支援金が、例えば、学校独自の特典や授業料軽減策であるかのような不適切な表示を行わないことはもとより、授業料や高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金、その他の奨学金等の申請方法を含めた取扱いについて適切に説明した上で表示すること⁵

2. 教育課程等に関する事項

(1) 教育課程及びそれに基づく指導と評価

- ① 通信制の課程においても、高等学校教育として、教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）、学校教育法、高等学校学習指導要領（平成 21 年文部科学省告示第 34 号。以下「指導要領」という。）等の教育課程に関する法令等に従い、適切な教育課程を編成すること
- ② 教育課程の実施に当たっては、指導要領及びその解説を踏まえ、各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動（以下「教科・科目等」という。）のそれぞれについて、指導目標、指導内容、指導の順序、指導方法、使用教材（教科用図書等）、指導の時間配当等を具体的に定めた指導計画を作成すること
- ③ 学習評価に当たっては、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（平成 22 年 5 月 11 日文部科学省初等中等教育局長通知）に示す評価の観点及び趣旨を十分踏まえながら、それぞれの教科・科目等のねらいや特性を勘案して、具体的な評価規準を設定するなど評価の在り方を工夫すること
- ④ 単位修得の認定は、教員が行う平素の学習評価に基づいて、最終的に校長が行うこと。校長は、学校があらかじめ定めた卒業までの修得すべき単位数を修得した者で、特別活動を履修しその成果が目標からみて満足できると認められる生徒について、全課程の修了を認定すること
- ⑤ 指導と評価に当たっては、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに特に意を用いること

⁵ 例えば、高等学校等就学支援金については、受給資格や支給額その他申請上の留意点等について、奨学金については申込資格・基準や返済義務等について、また、教育ローンやクレジット契約については返済内容その他消費者保護のために必要な事項等について、適切かつ明確な説明を行うことが必要である。

とされている（学校教育法第 30 条第 2 項等）ことを踏まえ、通信制の課程においても、これに基づき適切な教育が実施されるよう教育活動の工夫を図ること

- ⑥ 集団活動の場として欠かすことのできないホームルーム活動をはじめとした特別活動の重要性に鑑み、年間指導計画に基づき、特別活動について卒業までに 30 単位時間以上指導すること

（2）添削指導及びその評価

- ① 添削指導は高等学校通信教育における教育の基幹的な部分であり、実施校は添削指導を通じて生徒の学習の状況を把握し、生徒の思考の方向性をつまづきを的確に捉えて指導すること
- ② 添削指導及びその評価は、各教科の教員免許状を取得している実施校の教員が行うこと
- ③ 指導要領において定める添削指導の回数の標準を踏まえて、各教科・科目における添削指導の回数を十分確保すること
- ④ マークシート形式のように機械的に採点ができるような添削課題や、択一式の問題のみで構成される添削課題は不適切であること
- ⑤ 添削指導の実施に当たっては、年度末や試験前にまとめて添削課題を提出させたり、学期当初に全回数分の添削課題をまとめて提出することを可能としたりするような運用は行わないこと。また、添削指導や面接指導が完了する前に、当該学期の全ての学習内容を対象とした学期末の試験を実施したりすることがないよう、年間指導計画に基づき、計画的に実施すること
- ⑥ 添削指導の実施に当たっては、正誤のみの指摘はもちろん、解答に対する正答のみの記載や一律の解説の記載だけでは不十分、不適切であり、各生徒の誤答の内容等を踏まえた解説を記載するなど、生徒一人一人の学習の状況に応じた解説や自学自習を進めていく上でのアドバイス等を記載すること
- ⑦ 生徒から添削指導等についての質問を受け付け、速やかに回答する仕組みを整えること

（3）面接指導及びその評価

- ① 面接指導は、添削指導と同様、高等学校通信教育における基幹的な部分であり、各学校はその重要性に鑑み、絶えず改善に努めること
- ② 面接指導及びその評価は、各教科の教員免許状を取得している実施校の教員が

行うこと

- ③ 指導要領において定める面接指導の単位時間数の標準を踏まえて、各教科・科目における面接指導の単位時間数を十分確保すること。面接指導の授業の1単位時間を弾力的に運用する場合でも、1単位時間を50分として計算された単位数に見合う面接指導の単位時間数を十分確保すること
- ④ 面接指導においては、個別指導を重視して一人一人の生徒の実態を十分把握し、年間指導計画に基づき、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導すること
- ⑤ 実施校以外の連携施設において面接指導を実施する場合、実施校において生徒の履修状況を十分に把握するとともに、例えば、観察・実験や実習が適切に実施できるよう、施設・設備等も含め、面接指導を行う上で適切な教育環境を整えること
- ⑥ 実施校や連携施設において実施されている、いわゆる通学コースにおける教育活動と、指導要領等に基づき実施される面接指導とは明確に区別されるものであり、面接指導は上記の事項も踏まえ、指導要領等の法令等に基づき実施すること

(4) 多様なメディアを利用して行う学習及び当該学習による面接指導等時間数の減免

- ① ラジオ放送、テレビ放送その他多様なメディアを利用した学習を取り入れた指導及びその評価は、各教科の教員免許状を取得している実施校の教員が行うこと
- ② 多様なメディアを利用して行う学習は、計画的、継続的に取り入れるべきものであり、高等学校教育の目標に基づき、高等学校教育としての水準の確保に十分配慮すること
- ③ 多様なメディアを利用して行う学習を計画的、継続的に取り入れ、各教科・科目の面接指導の時間数又は特別活動の時間数（以下「面接指導等時間数という。」）の一部免除を行うことができるのは、報告課題の作成等により、その成果が満足できると認められる場合であること
- ④ ①から③までの場合において、面接指導等時間数のうち、10分の6以内の時間数を免除することができること。また、生徒の実態等を考慮して特に必要がある場合は、面接指導等時間数のうち、複数のメディアを利用することにより、

メディアごとにそれぞれ10分の6以内の時間数を免除することができること。ただし、免除する時間数は合わせて10分の8を超えることができないこと。生徒の実態等を考慮して特に必要がある場合とは、例えば、「病気や事故のため、入院又は自宅療養を必要とする場合」、「いじめ、人間関係など心因的な事情により登校が困難である場合」、「仕事に従事していたり、海外での生活時間が長かったりして、時間の調整がつかない場合」や、「実施校自らが生徒の実態等を踏まえ、複数のメディア教材を作成する等により教育効果が確保される場合」等が想定されること

- ⑤ 生徒の面接指導等時間数を免除しようとする場合には、本来行われるべき学習の量と質を低下させることがないように十分配慮しなければならないこと
- ⑥ 生徒の面接指導等時間数を免除する場合、多様なメディアを利用して生徒が行った学習の時間数と、同程度又はそれ以上の時間数を免除するという運用は不適切であること⁶

(5) 試験及びその評価

- ① 試験は実施校の教職員の監督下で適切に実施し、その採点基準の作成及び評価は各教科の教員免許状を取得している実施校の教員が行うこと
- ② 試験は、通信制の課程で行う教育の一部であり、添削指導や面接指導における学習成果の評価とあいまって、単位を認定するために個々の生徒の学習内容の定着状況等を測るための手段であることを踏まえ、自宅試験の方法で行ったり、全ての教科・科目等において自由な成果物の提出により試験の替わりとしたり、試験問題が毎年同じであったりするなどの不適切な試験が実施されることがないように、留意すること。なお、コンピュータやタブレット端末等を用いてオンラインでの試験等を実施する場合であっても、確実な本人確認や不正行為防止の仕組みを構築するなど、実施校の適切な監督下で実施すること

(6) 学校設定教科・科目、総合的な学習の時間の実施

- ① 学校設定教科・科目の開設、実施に当たっては、年間指導計画に基づき、資格

⁶ 面接指導への欠席等により面接指導等時間数が不足するおそれのある生徒に対し、多様なメディアを利用して行う学習により面接指導等時間数の減免を行おうとする際には、平素から個々の生徒の面接指導の状況を把握し、多様なメディアを利用して行う学習が計画的、継続的に取り入れられるよう留意が必要である。

のある教員が指導要領等に則り適切に実施すること。特に、単なる体験活動の実施を単位認定するような運用や、生徒の学習状況の把握及び評価が十分に行われぬまま実施されるような運用は不適切であり、高等学校教育の目標及びその教育水準の確保等に十分配慮すること。また、学校設定教科・科目の添削指導の回数及び面接指導の単位時間数については、1単位につき、それぞれ1回以上及び1単位時間以上を確保した上で、各学校において適切に定めること

- ② 総合的な学習の時間の添削指導の回数については、指導要領の規定を踏まえ、1単位につき1回以上を確保した上で、各学校において、学習活動に応じ適切に定めること
- ③ 総合的な学習の時間における面接指導の単位時間数については、指導要領の規定を踏まえ、観察・実験・実習、発表や討論などを積極的に取り入れるためには、面接指導が重要となることを踏まえ、1単位につき1単位時間以上を確保した上で、各学校において、学習活動に応じ適切に定めること

(7) その他

- ① 添削指導等の質の確保、向上のため、校内外における教員研修の機会の充実に努めること
- ② 学校に在籍しながら履修登録を行わない生徒や、履修登録しているにも関わらず、添削課題への取組や面接指導への参加が困難な生徒に対しては、個々の実情に応じ、適切な指導又は支援を行うよう努めること⁷
- ③ 特別な支援を要する生徒の実態等を踏まえ、特別支援教育に関する校内委員会の設置や実態把握、特別支援教育コーディネーターの指名、特別支援教育に関する専門的な知識・経験を有する教員等の配置、個別の指導計画や個別の教育支援計画の策定・活用、教員の専門性向上のための研修の実施等により、支援の充実に努めること
- ④ 不登校経験や中途退学その他多様な課題を抱える生徒の実態等を踏まえ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置するなど、きめ細かな支援の充実に努めること
- ⑤ 進学・就職支援を担当する教職員やキャリアカウンセラーを配置するなど、

⁷ 1科目も履修していない、いわゆる「非活動生徒」については、学校に在籍を続けることで、生徒の能動的な活動を待つという教育的配慮が必要な場合もあるため、画一的な対応によるのではなく、生徒の抱える課題等に留意することが必要である。

生徒の社会的・職業的自立に向けた支援の充実に努めること

- ⑥ なお、上記②～⑤の内容も含む教育支援や生徒指導、進路指導等は、いわゆる通学コースに生徒が在籍しているか否かにかかわらず、学校として在籍する全ての生徒に対して、当然に行うべきものであること

3. 施設及び設備に関する事項

- ① 実施校の校舎面積が通信教育規程第8条に定める基準を満たすよう努めること
- ② 通信教育規程第9条に規定する校舎に備えるべき施設（教室（普通教室、特別教室等）、図書室、職員室、専門教育を施すための施設）のほか、実施校の教育課程に規定される教科・科目等の授業に必要な実験・実習等のための施設及び設備を備え、体育の授業に必要な運動場等を確保するとともに、これらが持つ本来の機能が十分発揮されるような環境づくりに努めること
- ③ 実施校が添削指導等を行うために設置する本校以外の施設や上記1（2）④の方法により添削指導等を行う連携施設についても、生徒を受け入れ、教育を行うための適切な施設及び設備等の環境が確保されるようにすること

4. 積極的な情報公開の推進

- ① 実施校及び実施校の設置者においては、積極的な情報公開に努めること。その際には、生徒や保護者等の関係者が、学校の教育環境の充実にに向けた取組や学校の運営状況等に関し、適切かつ十分な情報を得られるよう努めること⁸

⁸ 学校の教育環境の充実にに向けた取組や学校の運営状況等に関する情報としては、生徒の状況（生徒数や活動の様子）、教職員の配置状況（専任・兼任の別を含む）、各教科・科目等の開設状況、施設・設備の整備状況、連携施設の状況、授業料等の学納金に関する情報及び財務状況等についてホームページの活用等により、生徒や保護者等の関係者がアクセスしやすい環境が整備されることが望まれる。

高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン 新旧対照表

改 訂 前	改 訂 後
<p>1. 学校の管理運営に関する事項</p> <p>(2) 連携施設との適切な協力・連携関係の確保等</p> <p>⑦実施校において、自校の施設として添削指導等を行う施設を設置する場合であつても、<u>上記①から⑥の趣旨を踏まえ、適切な学校の管理運営に資するよう留意すること</u></p> <p>(3) 学校評価</p> <p>①教育活動その他の学校運営の状況について、<u>本ガイドライン及び「学校評価ガイドライン〔平成28年改訂〕」(平成28年3月22日、文部科学省作成)等を踏まえ、少なくとも1年度間に1回、自己評価を行い、その結果を公表すること。また、評価結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めること。また、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に公開すること</u></p> <p>(4) その他</p> <p>④高等学校等就学支援金の代理受領等の事務を適正かつ確実に執行するとともに、生徒募集等に当たって、高等学校等就学支援金が、例えば、学校独自の特典や授業料軽減策であるかのような不適切な表示を行わないことはもとより、授業料や高等学校等就学支援金、奨学金等の取扱いについて適切に表示すること</p>	<p>1. 学校の管理運営に関する事項</p> <p>(2) 連携施設との適切な協力・連携関係の確保等</p> <p>⑦実施校において、自校の施設として添削指導等を行う施設を設置する場合であつても、<u>本ガイドラインを踏まえ、適切な学校の管理運営に資するよう留意すること</u></p> <p>(3) 学校評価</p> <p>①教育活動その他の学校運営の状況について、「<u>学校評価ガイドライン〔平成28年改訂〕</u>」(平成28年3月22日、文部科学省作成)等を踏まえ、少なくとも1年度間に1回、自己評価を行い、その結果を公表すること。<u>その際、添削指導等については、連携施設における実施状況も含め、本ガイドラインを踏まえたものとなっているかについても評価の対象とすること。また、評価結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めること</u></p> <p>(4) その他</p> <p>④高等学校等就学支援金の代理受領等の事務を適正かつ確実に執行するとともに、生徒募集等に当たって、高等学校等就学支援金が、例えば、学校独自の特典や授業料軽減策であるかのような不適切な表示を行わないことはもとより、<u>授業料や高等学校等就学支援金、高校生等奨学給付金、その他の奨学金等の申請方法を</u></p>

2. 教育課程等に関する事項

(2) 添削指導及びその評価

- ①添削指導及びその評価は、各教科の教員免許状を取得している実施校の教員が行うこと
- ②指導要領において定める添削指導の回数の標準を踏まえて、各教科・科目における添削指導の回数を十分確保すること
- ③総合的な学習の時間の添削指導の回数については、指導要領第4章総合的な学習の時間の規定を踏まえ、その回数を適切に定めること
- ④添削指導においては、生徒の学習の状況を把握し、生徒の思考方向のつまづきを的確にとらえ指導していくこと。このため、例えば、マークシート形式のように機械的に採点ができるような課題や、択一式の問題のみで構成される課題は不適切であること
- ⑤添削指導に当たっては、正誤のみの記載ではなく、必要な解説等を付すこと

含めた取扱いについて適切に説明した上で表示すること

2. 教育課程等に関する事項

(2) 添削指導及びその評価

- ①添削指導は高等学校通信教育における教育の基幹的な部分であり、実施校は添削指導を通じて生徒の学習の状況を把握し、生徒の思考の方向性をつまづきを的確に捉えて指導すること
- ②添削指導及びその評価は、各教科の教員免許状を取得している実施校の教員が行うこと
- ③指導要領において定める添削指導の回数の標準を踏まえて、各教科・科目における添削指導の回数を十分確保すること
→ (6) ②へ移動
- ④マークシート形式のように機械的に採点ができるような添削課題や、択一式の問題のみで構成される添削課題は不適切であること
- ⑤添削指導の実施に当たっては、年度末や試験前にまとめて添削課題を提出させたり、学期当初に全回数分の添削課題をまとめて提出することを可能としたりするような運用は行わないこと。また、添削指導や面接指導が完了する前に、当該学期の全ての学習内容を対象とした学期末の試験を実施したりするようなことが

(新設)

(新設)

(3) 面接指導及びその評価

(新設)

- ① 面接指導及びその評価は、各教科の教員免許状を取得している実施校の教員が行うこと
- ② 指導要領において定める面接指導の単位時間数の標準を踏まえて、各教科・科目における面接指導の単位時間数を十分確保すること。面接指導の授業の1単位時間を弾力化する場合でも、1単位時間を50分として計算された単位数に見合う面接指導の単位時間数を十分確保すること
- ③ 総合的な学習の時間における面接指導の単位時間数については、指導要領第4章総合的な学習の時間の規定を踏まえ、観察・実験・実習、発表や討論などを積極的に取り入れるためには、面接指導が重要となることを踏まえ、その単位時間数を適切に定めること

ないよう、年間指導計画に基づき、計画的に実施すること

⑥ 添削指導の実施に当たっては、正誤のみの指摘はもちろん、解答に対する正答のみの記載や一律の解説の記載だけでは不十分、不適切であり、各生徒の誤答の内容等を踏まえた解説を記載するなど、生徒一人一人の学習の状況に応じた解説や自学自習を進めていく上でのアドバイス等を記載すること

⑦ 生徒から添削指導等についての質問を受け付け、速やかに回答する仕組みを整えること

(3) 面接指導及びその評価

① 面接指導は、添削指導と同様、高等学校通信教育における基幹的な部分であり、各学校はその重要性に鑑み、絶えず改善に努めること

② 面接指導及びその評価は、各教科の教員免許状を取得している実施校の教員が行うこと

③ 指導要領において定める面接指導の単位時間数の標準を踏まえて、各教科・科目における面接指導の単位時間数を十分確保すること。面接指導の授業の1単位時間を弾力化する場合でも、1単位時間を50分として計算された単位数に見合う面接指導の単位時間数を十分確保すること

→ (6) ③へ移動

(新設)

(新設)

(4) 多様なメディアを利用した指導及びその評価

②多様なメディアを利用して行う学習を取り入れる場合は、計画的かつ継続的に提供し、高等学校教育の目標及びその水準の維持が図られるよう十分配慮すること

③多様なメディアを利用して行う学習を取り入れ、各教科・科目の面接指導の時間数又は特別活動の時間数の一部免除を行う場合、報告課題の作成等により、その成果が満足できると認められるものであるかを確認すること

(新設)

⑤実施校以外の連携施設において面接指導を実施する場合、実施校において生徒の履修状況を十分に把握するとともに、例えば、観察・実験や実習が適切に実施できるよう、施設・設備等も含め、面接指導を行う上で適切な教育環境を整えること

⑥実施校や連携施設において実施されている、いわゆる通学コースにおける教育活動と、指導要領等に基づき実施される面接指導とは明確に区別されるものであり、面接指導は上記の事項も踏まえ、指導要領等の法令等に基づき実施すること

(4) 多様なメディアを利用して行う学習及び当該学習による面接指導等時間数の減免

②多様なメディアを利用して行う学習は、計画的、継続的に取り入れるべきものであり、高等学校教育の目標に基づき、高等学校教育としての水準の確保に十分配慮すること

③多様なメディアを利用して行う学習を計画的、継続的に取り入れ、各教科・科目の面接指導の時間数又は特別活動の時間数(以下「面接指導等時間数という。)」の一部免除を行うことができるのは、報告課題の作成等により、その成果が満足できると認められる場合であること

④①から③までの場合において、面接指導等時間数のうち、10分の6以内の時間数を免除することができること。また、生徒の実態等を考慮して特に必要がある場合は、面接指導等時間数のうち、複数のメディアを利用することにより、メディアごとにそれぞれ10

<u>(新設)</u>	<p><u>分の6以内の時間数を免除することができること。ただし、免除する時間数は合わせて10分の8を超えることができないこと。生徒の実態等を考慮して特に必要がある場合とは、例えば、「病気や事故のため、入院又は自宅療養を必要とする場合」、「いじめ、人間関係など心因的な事情により登校が困難である場合」、「仕事に従事していたり、海外での生活時間が長かったりして、時間の調整がつかない場合」や、「実施校自らが生徒の実態等を踏まえ、複数のメディア教材を作成する等により教育効果が確保される場合」等が想定されること</u></p>
<u>(新設)</u>	<p><u>⑤ 生徒の面接指導等時間数を免除しようとする場合には、本来行われるべき学習の量と質を低下させることがないように十分配慮しなければならないこと</u></p>
<u>(新設)</u>	<p><u>⑥ 生徒の面接指導等時間数を免除する場合、多様なメディアを利用して生徒が行った学習の時間数と、同程度又はそれ以上の時間数を免除するという運用は不適切であること</u></p>
<u>(新設)</u>	<p><u>注釈6 面接指導への欠席等により面接指導等時間数が不足するおそれのある生徒に対し、多様なメディアを利用して行う学習により面接指導等時間数の減免を行うおとす際には、平素から個々の生徒の面接指導の状況を把握し、多様なメディアを利用して行う学習が計画的、継続的に取り入れられるよう留意が必要である。</u></p> <p><u>(6) 学校設定教科・科目、総合的な学習の時間の実施</u></p> <p><u>① 学校設定教科・科目の開設、実施に当たっては、年</u></p>

(6) その他
(新設)

②特別な支援を要する生徒の実態等を踏まえ、特別支援教育に関する校内委員会の設置や実態把握、特別支

間指導計画に基づき、資格のある教員が指導要領等に則り適切に実施すること。特に、単なる体験活動の実施を単位認定するような運用や、生徒の学習状況の把握及び評価が十分に行われないまま実施されるような運用は不適切であり、高等学校教育の目標及びその教育水準の確保等に十分配慮すること。また、学校設定教科・科目の添削指導の回数及び面接指導の単位時間数については、1単位につき、それぞれ1回以上及び1単位時間以上を確保した上で、各学校において適切に定めること

②総合的な学習の時間の添削指導の回数については、指導要領の規定を踏まえ、1単位につき1回以上を確保した上で、各学校において、学習活動に応じ適切に定めること

③総合的な学習の時間における面接指導の単位時間数については、指導要領の規定を踏まえ、観察・実験・実習、発表や討論などを積極的に取り入れるためには、面接指導が重要となることを踏まえ、1単位につき1単位時間以上を確保した上で、各学校において、学習活動に応じ適切に定めること

(7) その他

②学校に在籍しながら履修登録を行わない生徒や、履修登録しているにも関わらず、添削課題への取組や面接指導への参加が困難な生徒に対しては、個々の実情に応じ、適切な指導又は支援を行うよう努めること

③特別な支援を要する生徒の実態等を踏まえ、特別支援教育に関する校内委員会の設置や実態把握、特別支

援教育コーディネーターの指名、特別支援教育に関する専門的な知識・経験を有する教員等の配置、個別の指導計画や個別の教育支援計画の策定・活用、教員の専門性向上のための研修の実施等により、支援の充実に努めること

③特別な支援を要する生徒の実態等を踏まえ、特別支援教育に関する校内委員会の設置や実態把握、特別支援教育コーディネーターの指名、特別支援教育に関する専門的な知識・経験を有する教員等の配置、個別の指導計画や個別の教育支援計画の策定・活用、教員の専門性向上のための研修の実施等により、支援の充実に努めること

④進学・就職支援を担当する教職員やキャリアカウンセラーを配置するなど、生徒の社会的・職業的自立に向けた支援の充実に努めること

(新設)

(新設)

援教育コーディネーターの指名、特別支援教育に関する専門的な知識・経験を有する教員等の配置、個別の指導計画や個別の教育支援計画の策定・活用、教員の専門性向上のための研修の実施等により、支援の充実に努めること

④特別な支援を要する生徒の実態等を踏まえ、特別支援教育に関する校内委員会の設置や実態把握、特別支援教育コーディネーターの指名、特別支援教育に関する専門的な知識・経験を有する教員等の配置、個別の指導計画や個別の教育支援計画の策定・活用、教員の専門性向上のための研修の実施等により、支援の充実に努めること

⑤進学・就職支援を担当する教職員やキャリアカウンセラーを配置するなど、生徒の社会的・職業的自立に向けた支援の充実に努めること

⑥なお、上記②～⑤の内容も含む教育支援や生徒指導、進路指導等は、いわゆる通学コースに生徒が在籍しているか否かにかかわらず、学校として在籍する全ての生徒に対して、当然に行うべきものであること

注釈7 1科目も履修していない、いわゆる「非活動生徒」については、学校に在籍を続けることで、生徒の能動的な活動を待つという教育的配慮が必要な場合もあるため、画一的な対応によるのではなく、生徒の抱える課題等に留意することが必要である。

4. 積極的な情報公開の推進

①実施校及び実施校の設置者においては、積極的な情報公開に努めること。その際には、生徒や保護者等の

関係者が、学校の教育環境の充実に向けた取組や学校の運営状況等に関し、適切かつ十分な情報を得られるよう努めること

注釈 8 学校の教育環境の充実に向けた取組や学校の運営状況等に関する情報としては、生徒の状況（生徒数や活動の様子）、教職員の配置状況（専任・兼任の別を含む）、各教科・科目等の開設状況、施設・設備の整備状況、連携施設の状況、授業料等の学納金に関する情報及び財務状況等についてホームページの活用等により、生徒や保護者等の関係者がアクセスしやすい環境が整備されることが望まれる。